

2011年度

事業報告書



〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075-641-0911 FAX.075-641-0912
<http://www.miyako-eco.jp/>



発行 2012年9月

京都市環境保全活動センター
京都市環境保全活動センター
(財)京都市環境事業協会

○ 編集・発行方針

「持続可能な地域社会」を目指して

京エコロジーセンターは、1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議」(COP3)の開催を記念して京都市が開設した環境教育、環境保全活動の拠点施設です。センターは現在、指定管理者制度^{*1}の下で、事業運営委員会^{*2}を設置して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会」を目指して、事業運営を行っています。

2011年度より、第2期中長期計画^{*3}に沿って事業運営を行っており、本報告書は、センターにご来館いただいたお客様を始め、多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすくご理解いただくためのツールとして作成しております。

*1 2009年～2012年の間、財団法人京都市環境事業協会が指定管理者として指定されています。

*2 京都市から提示された仕様書に、様々な主体により構成された「事業運営委員会」の設置が求められており、事業の企画、立案、評価を協働で行っています。

*3 2010年度末に事業運営委員会により策定された事業計画で、2015年度を目標年度と定めた計画です。(第1期は2005年～2010年)

関連情報

本報告書に掲載した情報以外にも、京エコロジーセンターホームページより、様々な情報を発信しています。

■京エコロジーセンターWEBサイト

<http://www.miyako-eco.jp>

事業報告書2011

- 対象期間 ○ 2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。
- 発行日 ○ 2012年9月
- 発行 ○ 京エコロジーセンター

もくじ

• contents

○ 編集・発行方針	01
○ 館長メッセージ	03
○ 事業内容と概況	04
○ 事業報告	

1 いろいろな主体が学び、育つステージの提供 06～12

1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践	07
2 環境ボランティアの育成、支援	10
3 子どもから大人まで環境ひとつづくり	11

2 いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携 13～17

1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携	14
2 NPOをはじめとする環境保全団体への支援・連携	15
3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携	16

3 持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 18～21

1 情報発信・広報対策	19
2 イベント(プログラム)の企画、実施	21

○ まとめ	22
○ パートナーの声	23
○ 事業運営体制	24
○ 資料集	26

○館長メッセージ

「新たなステージへ」

京エコロジーセンター館長 高月 紘

おかげさまで、京エコロジーセンターは本年4月に10周年を迎えることができました。

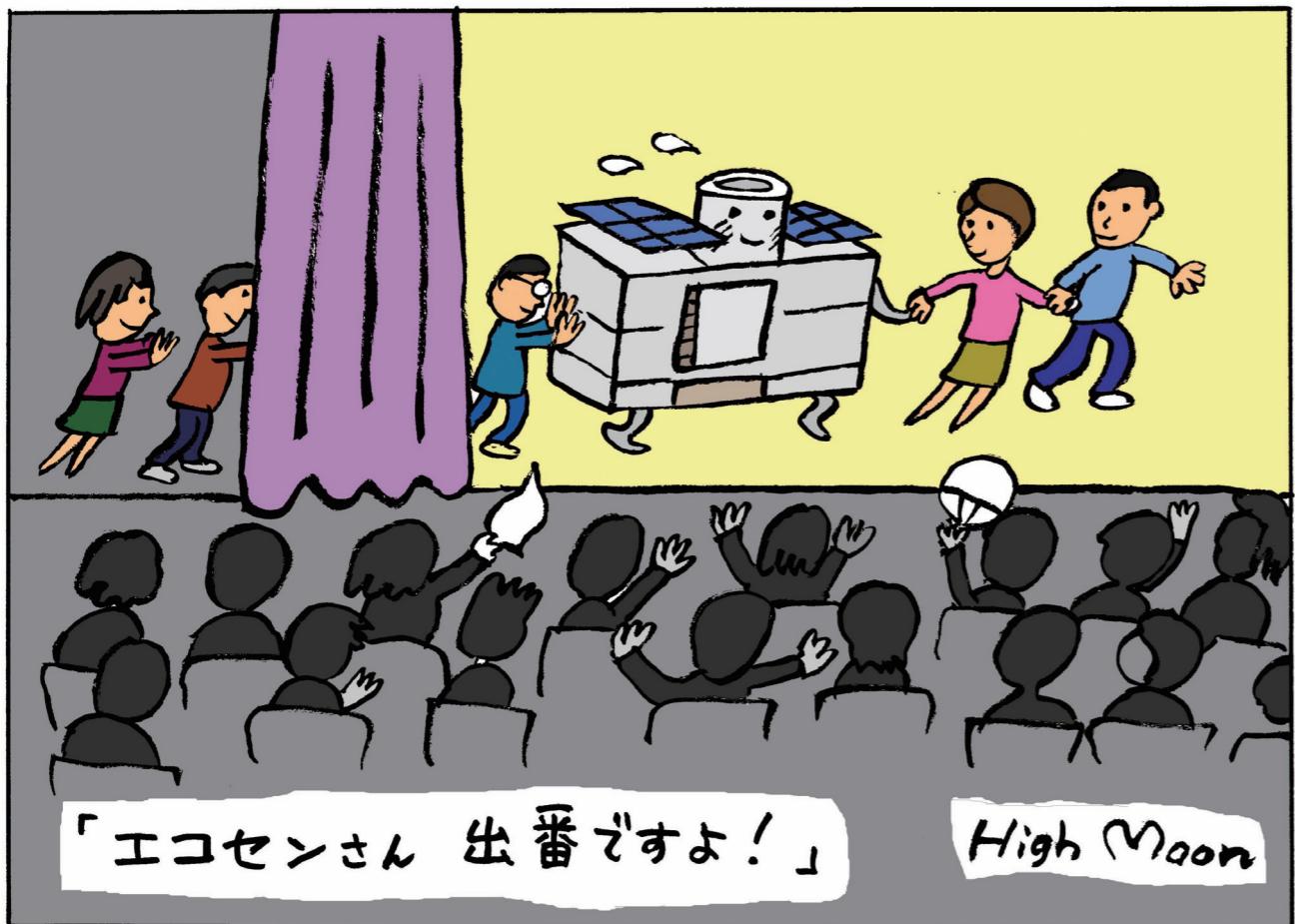
これまで、いろいろな方々に支えられて、ここまで来られたものと、あらためて関係各位に御礼を申し上げたいと思います。本センターの特徴としては、事業運営の中身を、環境NPO、事業者、地域団体、学識経験者、ボランティアの方々で構成される事業運営委員会で決定し、運営している点です。そして、もう一つの特徴はボランティアの方々、すなわちエコメイト、エコサポーターが、来館者への対応、各種イベントの企画や運営に携わっている点です。

全国に環境学習施設は数多くありますが、当センターのように行政主導ではなく、市民が主体となって活動を推進している施設は珍しいと思われます。また、最近では、海外からの視察も多くなり、国際的にも注目されつつあります。

このように、当センターの存在はそれなりの評価を受けつつありますが、どちらかといえばここ10年は館の運営基盤をどう確立するかに精力を注いできましたので知名度はまだ低いのが実情です。しかしながら、これからは中長期計画でも示していますように、パートナーシップと情報発信を強化し、国内外の環境学習施設の先駆的役割を積極的に果たしていきたいと思います。

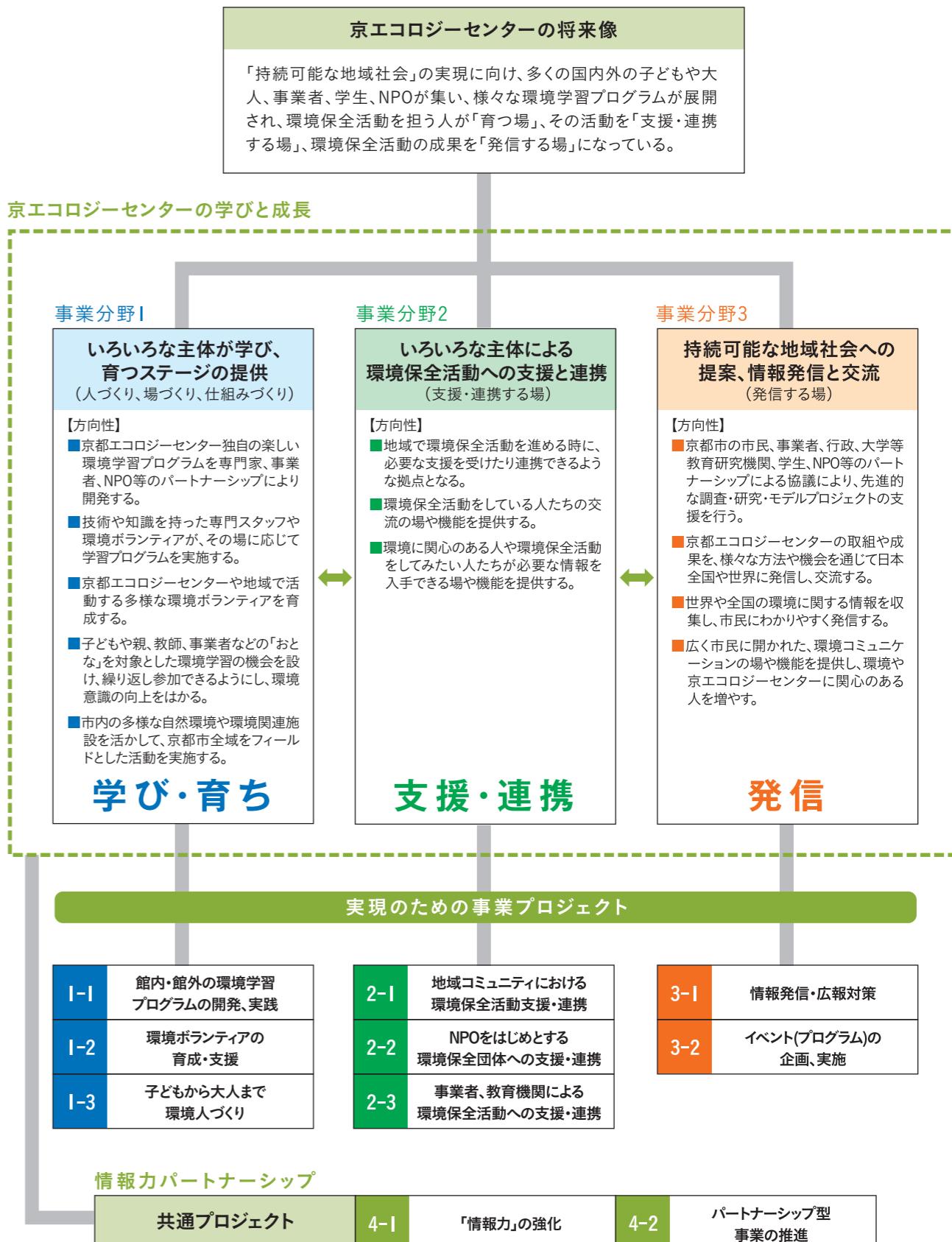
昨年の3.11をうけて、世の中はエネルギーと資源の大切さと自然との共生の在り方を今一度見直すことを求めていました。その意味で、当エコロジーセンターの使命がますます重要になってきました。

当センターは10年を経て、今新しいステージに向かう時が来たようです。



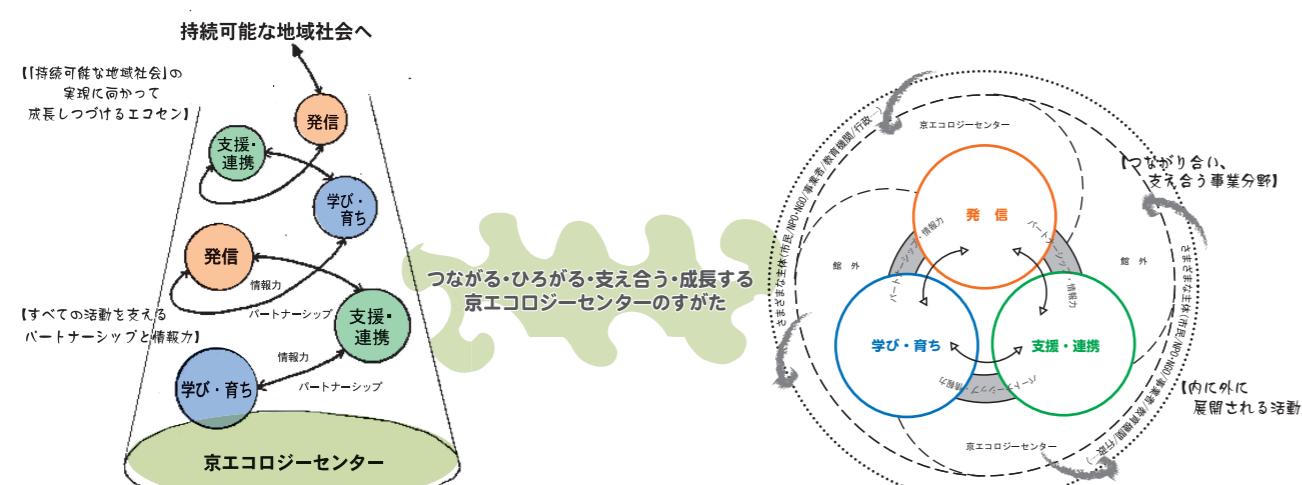
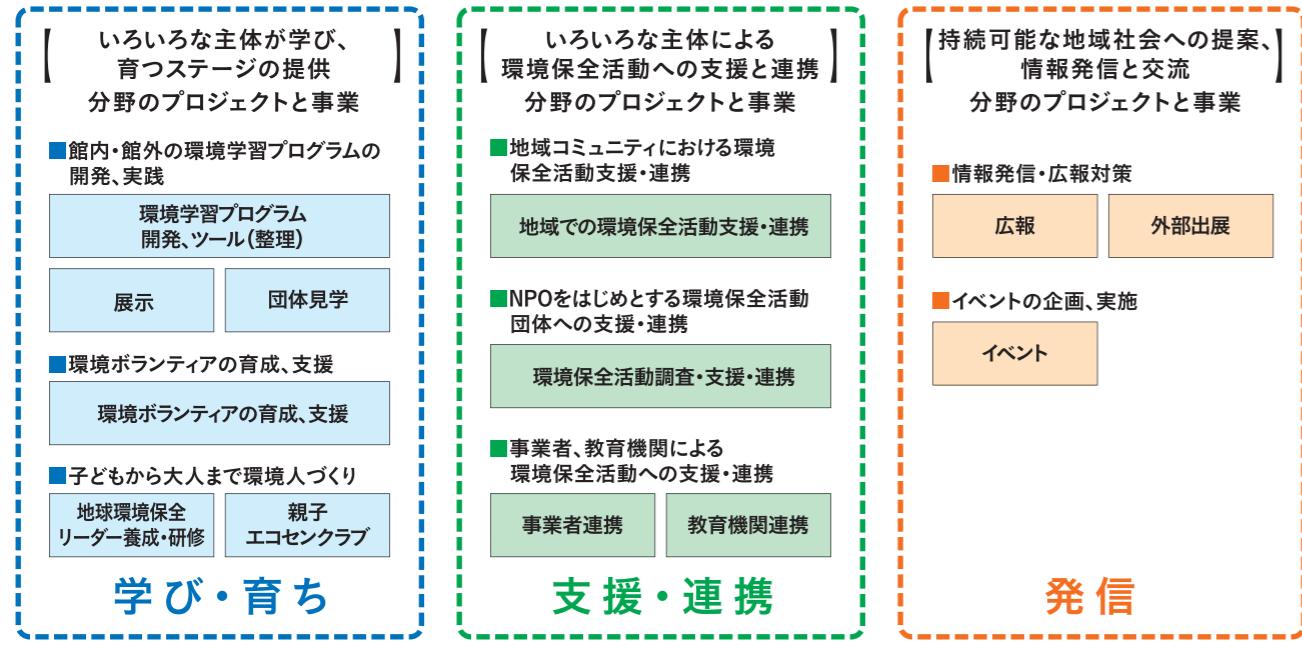
○事業内容と概況

将来像及び実現のための事業分野と方向性・事業プロジェクト一覧

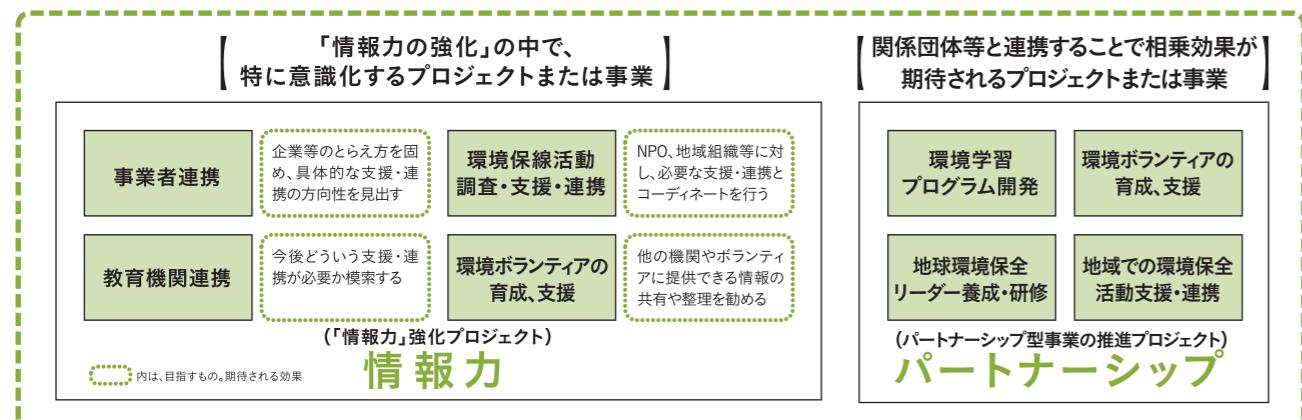


つながる・ひろがる・支え合う・成長する 京エコロジーセンターのすがた

1.3つの事業分野



2.すべての事業と関連する共通プロジェクト



1

いろいろな主体が学び、 育つステージの提供

二〇一一年度事業報告

- 1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践
 - 2 環境ボランティアの育成、支援
 - 3 子どもから大人まで環境ひとつづくり

1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

○ 2015年度到達目標

幅広い年齢層を対象に館内外において、体験を通じた気づきから行動につながる体系だてた環境学習プログラム及びツールが充実している。さらに、参加者のみならずスタッフも学ぶことのできる場づくりが行われている。

1-1-1

館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

プログラム開発・ツール(整理)

成 果 目 標

幼稚・小学校低学年・高学年・中高生・大人まで、幅広い年齢層を受け入れる体制が整っている。

行為目標

- ① 幼児(4~6歳)に対応した環境学習プログラムを作成し、実施できるスタッフの確保など実施体制を整える。
- ② 修学旅行に対応した環境学習プログラムを作成し、外部へのPRなど受入体制を整える。
- ③ 2012年度からの実施に向けて、新たなエコ学習のプログラムを作成する。



主な実績

- ⑦ 2010年度作成の幼児向けプログラムの取組実例を京都市教員研修の場でプレゼンテーションし、ブラッシュアップを図り、プログラムを完成させました。また木をテーマにしたプログラム案を作成しました。
- ⑧ 修学旅行生対象プログラムを作成し、「京都散策乗物ガイド」に広告を掲載しました。また修学旅行生対処のフォトコンテストの開催をHPで周知しました。(募集期間:2012年8月~12月)
- ⑨ 京都市教育委員会の協力で環境副読本の活用状況のアンケートを実施しました。また2012年度版環境副読本を作成し、市内小中学校に配布しました。



ここ数年、幼児を連れた親子連れのお客様が増えてきており、幼児向けのプログラムを作成するための職員研修や、プログラムの試行を重ねてきました。そして2011年度に、保育園、幼稚園等の団体を対象とした幼児向けプログラムを完成することができました。また、年間100万人とも言われる京都を訪れる修学旅行生の獲得も数年来の課題でした。2011年度は、修学旅行生向けのガイドブックを出版する事業者にアドバイスをいただきながら、プログラムを作成することができました。さらに、隣接する京都市青少年科学センターと実施しているエコ学習の新プログラム開発は、次年度も継続して協議していきます。

1-1-2

館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践 展示の保守・改善

成 果 目 標

- ① 低年齢層とその保護者が落ち着いて楽しめる具体的な工夫がある。
- ② スタッフ(ボランティア、職員)がエコセンについて紹介しやすくなり、市民にエコセンが何なのかを知つもらう機会が増える。
- ③ 外観に工夫をし、近所の親子など、まだエコセンに入ったことがない人が、エコセンの中を知る。

行為目標

- ① 体験コーナーに、4~6歳程度の子どもが楽しく学ぶための策を講じる。
- ② エコセン紹介の紙芝居を作成・活用する。
- ③ エコセン外観に、幼児と一緒に楽しめることがわかる工夫を行う。

主な実績

- ⑦ 1階「エコミックのひろば」に館長マンガを使ったぬりえを幼児向けに設置しました。
- ⑧ 3階子どもひろばに大型絵本コーナーを設置し、低年齢層の親子が過ごしやすい雰囲気を作り出しました。
- ⑨ 1階入り口のガラス面に館長マンガキャラクターを貼付し、入館しやすい雰囲気をデザインしました。



プログラム同様、展示にも幼児向けの工夫を取り入れるべく検討を重ねてきました。2011年度は3階子どもひろばに親子で楽しめる大型絵本コーナーを設置したり、従来はロゴマークのみであった入り口ガラス面に、イラストを配置し、親子連れが親しみを感じやすい雰囲気を作りました。また、幼児及び低学年に人気の「エコ虫探し」を、ただ探すだけに終わらないツールに発展させる取り組みもアドバイザーと協議を進めており、次年度も継続して協議して実施することとしています。

1-1-3

団体見学受入

館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

成 果 目 標

- ①団体見学を受け入れるにあたり、必要十分なボランティアが確保され(自信を持ったボランティアが増える)、きめ細かい館内案内が実施されるよう団体見学の質を高める体制が整っている。
- ②アンケートにより収集されたデータを活用し、参加者の満足度をはかる。

行為目標

- ①職員・ボランティアの協働による案内スキルの向上プログラムを行う。
- ②収集したいデータと活用方法を見出し、見学者アンケートを作成・実施する。

主な実績

- ⑦エコ学習を含む団体見学にたずさわるボランティアのスキルアップ研修を延べ10回実施しました。
- ⑧案内対応職員に対する8項目のアンケートを団体代表者に行った結果、総合評価で高い満足度が得られました。
(サンプル数38:①とても満足38%、②満足52%、③普通8%)
- ⑨見学者の満足度アンケート調査で高い数値が得られました。
(サンプル数200の総合評価:①とても満足36%、②満足48%、③普通11%、やや不満2%。案内評価:①とてもわかりやすい57%、②わかりやすい32%、③普通7%)
- ⑩エコまちステーションのエコバスツアー向けにテーマ別の館内案内コースや体験プログラムを盛り込んだPRチラシを作成し、配布しました。



展示の基本情報を記載した「展示シート」を作成することで、不慣れなボランティアスタッフが自信を持って案内するための支援策としました。またボランティアスタッフ同士で展示を活用したミニアクティビティの作成などを行いました。団体で来館されるお客様へのアンケート調査をもとに、お客様の満足度を捉え、より質の高い案内を目指して、ボランティアスタッフのスキルアップを行い、案内に反映させることに取り組んできました。また、今まで不十分だったお客様アンケートを団体見学に特化したものを作成し、案内の質を向上させるための基本情報の収集を行いました。

2

環境ボランティアの育成、支援

○ 2015年度到達目標

新規養成講座・エコメイト活動3年間及びその後の京エコソーターとしての地域活動までを見据えて活動・研修などのサポート体制が整っている。

1-2

環境ボランティアの育成、支援

環境ボランティアの育成、支援

成 果 目 標

開館10周年に向けて過去のボランティア活動の記録をまとめることが、今後のボランティア活動支援の枠組みを見直すことに活かされている。



過去のボランティア活動の資料集を作ることを通して成果・課題を整理する。

主な実績

- ⑦エコメイト登録者数
(9~11期生)55人(2010年度:8~10期生61人)
- ⑧京エコソーター登録者数
(1~8期生)81人(2010年度:1~7期生87人)
- ⑨新規エコメイト養成講座は、応募者14人・受講者13人・登録者12人
- ⑩団体見学や案内活動に向けたステップアップ研修を13回実施しました。
- ⑪自主的活動を通じて、ボランティアのスキルアップを促すため、「部」「組」「会」の活動をスタートさせました。
(2011年4月現在:団体見学部25人、展示部13人、ボランティア部10人、イベント部25人、エコセンクラブ組17人、地域環境啓発組23人、エコエネ研究会15人、エコロジーカフェの会6人)
- ⑫京都市からの受託事業「エコ学区」事業に係る地域コーディネーターに、京エコソーターが「くらしの匠」として10人参加し、延べ101人がコーディネート業務に従事しました。
- ⑬エコ学習を含む団体見学に、延べ464人のボランティアが従事しました。
- ⑭ボランティアコーディネーション力検定に事業職員のうち2級2人、3級5人が合格し、コーディネーションについて共通の理解が進みました。

開館10周年を迎えるに当たり、センターのボランティア活動は多くの方々から評価されるまでになりました。京都市内外で、センターボランティア経験者が活躍し、環境保全活動の幅が広がりを見せています。しかしながら、新規ボランティアの応募状況が少ないとことや、活動に参加するボランティアの数が少しづつ少なくなっているという現状があります。ボランティアにとって、魅力ある活動とはいっていい何なのか、改めて、ボランティアの皆さんと議論し直すタイミングにきています。

3

子どもから大人まで環境ひとづくり

○ 2015年度到達目標

環境教育・環境保全活動を行う上で必要な知識・スキルを身につける講座が行われ、講座を修了した人々が京エコロジーセンターをはじめとする様々な主体によるフォローアップ・活動支援を受けて、環境リーダーとしての活動を生み出し、社会に対してアクションを行っている。

1-3-1

子どもから大人まで環境ひとづくり

地球環境保全リーダー養成・研修

成 果 目 標

環境教育の新たな担い手が創出されている。
自然エネルギー普及の新たな担い手が創出されている。
これまでの講座修了生をはじめとする市民に、環境保全活動に必要な知識（企画・広報・イベント運営手法など）や、機会が提供されている。



行 為 目 標

環境教育の理論と実践を学ぶための「環境教育リーダー養成講座2011」を開催。（連続6回講座）
自然エネルギーの最新情報について学ぶための「自然エネルギー学校・京都2011」を開催。（連続5回講座）
「環境保全活動のための講座」を開催。

主 な 実 繢

- ⑦「環境教育リーダー養成講座」（全6回）を31人の参加者により開講しました。（延べ139人参加）また歴年の環境教育リーダー養成講座受講者を対象に、2日間の「環境活動ステップアップ講座」を11人の参加者により開講しました。（延べ22人参加）
- ⑧「自然エネルギー学校・京都」（全5回）を40人の参加者により開講しました。（延べ133人参加）
- ⑨「第8回京都・環境教育ミーティング」を、龍谷大学深草校舎を会場に、取組実例紹介77件、330人の参加者により実施しました。（2010年度会場京エコロジーセンター 事例紹介36件参加者176人）

開館当初より実施してきた「環境教育リーダー養成講座」「自然エネルギー学校・京都」は、実施主体とセンターとの協働体制も確立され、お互いの持ち味を活かしながらの講座運営が出来るようになり、受講者の満足度も高く、質、中身ともに充実してきました。特に「自然エネルギー学校・京都」は、東日本大震災を契機に高まったエネルギー問題への関心を受け、時宜に即した講座内容としたことも重なり、すぐに定員に達する盛況ぶりでした。また、過去に多くの修了生も輩出しており、これら修了生に対する「環境活動ステップアップ講座」の実施も両講座ともに進みはじめました。

1-3-2

子どもから大人まで環境ひとづくり

親子エコセンクラブ事業

成 果 目 標

- ①身近な環境である「食べ物」を大事に思い、大切にできるよう、近隣地域の家庭を増やす。
- ②親子エコセンクラブに繰り返し参加している親子が、より積極的・主体的にエコセンでの活動に関わり、自ら活動を生み出す姿勢を持つようになる。

行 為 目 標

- ①「食の循環」を体験する連続プログラム【親子エコセンクラブ】を開催する。（年20回程度）
- ②親子エコセンクラブを経験したリピーター向け連続プログラム【エコメイト・キッズ】を開催する。（年20回程度）

主 な 実 繢

- ⑦食の循環をテーマにプログラムを体験する「親子エコセンクラブ」には38人（子ども23人、大人15人）が参加して延べ20回開催しました。（田植え、野菜の栽培、収穫、クッキング）
- ⑧第8回京都環境教育ミーティングで年間活動を集約した「壁新聞」を使い、活動報告を行いました。
- ⑨「親子エコセンクラブ」を経験したリピーター向け連続プログラム【エコメイト・キッズ】を食育アドバイザーによるクッキングを含めて、延べ20回開催しました。



5年目となった本事業は、複数年継続して参加している親子に対してよりステップアップした内容のプログラム提供が急務となっていました。そこで、2011年度はリピーター向け連続プログラム【エコメイト・キッズ】を実施しました。ステップアップした内容のプログラムを提供し続けるためには、携わるスタッフのスキルアップも非常に重要であり、今後は今までにも増して、スタッフのスキルアップに注力する必要が出てきました。

- 1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携**
- 2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携**
- 3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携**

いろいろな主体による 環境保全活動への 支援と連携

地域コミュニティにおける 環境保全活動支援・連携

○ 2015年度到達目標

自治会をはじめとする地域の様々な主体が、自主的に環境配慮型コミュニティづくりを行うための支援体制が整っている。

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

成 果 目 標

「エコセンと地域との関係作りの1年」という位置づけのもと、参加者に地域で環境問題解決に取組む意識づけをしながら、環境配慮型コミュニティづくりを行いたいと考える地域との関係を持ち始めている。

.....行為目標.....

- ①新しくエコセンと関わる地域に対して、継続的に関係を持つような環境学習会として、京都のライフスタイルを意識した「省エネ実践体験プログラム」の企画、実施。
- ②これまで関わりのある地域に関しては、地域のニーズや計画に合わせた積極的且つ自主性を尊重したサポートを行う。

.....主な実績.....

- ⑦受託事業「低炭素のモデル地区『エコ学区』事業」を市内2学区（松尾学区、九条学区）で、11グループ168世帯を対象に延べ45回、京エコソーターをコーディネーターとして派遣しました。
- ⑧エコ学区対象11学区の担当職員2人を協働コーディネーターとして派遣し、本部機能の一翼を担いました。
- ⑨くらしの匠事業の継続事業として、醍醐西女性会を母体とするグループに対し、独自で運営できるよう支援し、近隣の保育園の協力で地域向け省エネ紙芝居を制作しました。
- ⑩伏見区基本計画に基づく活性化プロジェクトに参加しました。また伏見区役所深草支所職員44人を対象に5回目の研修を実施しました。



京エコロジーセンターでは、過去4年間にわたり京都市と協働で、地域コミュニティにおける環境保全活動を拡げる事業を行ってきました。最初の3年間で、40近くの地域、グループにおいて省エネ体験を実施してきました。しかし、多くの地域、グループで実施したもの、活動の継続性という面においては、一時的な関係にとどまった地域が多いことも事実です。また、行政からの人的、金銭的支援ありきの活動をたくさん生み出しても、そこには支援の限界があります。このような経験から、地域の自立した環境保全活動が生まれるまでの、「継続支援」と「自立支援」を目指しました。特に、醍醐地域女性会との関わりの中で、自立した活動の芽がでてきたことは、大きな成果でした。

2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

○ 2015年度到達目標

市内の環境保全活動団体の現状を理解しながら、各主体と京エコロジーセンターが互いに発展するための、支援・連携の方法が構築されている。

3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携

○ 2015年度到達目標

市内の事業者や学生を含む教育機関が行う環境保全活動の現状を理解しながら、各主体と京エコロジーセンターの活動が互いに発展していくための、支援・連携の方法が構築されている。

2-2

NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

成 果 目 標

市内の環境保全活動団体との体制を整え、活動およびコミュニティづくりを活性化するために、支援・連携を行う対象や方法が新たに見出されている。



.....行為目標.....

- ①地域コミュニティにおける環境保全活動と連携した支援を試行する。
- ②地域の活動団体の活動及びニーズの調査と整理を行う。

.....主な実績.....

- ⑦助成制度の一部を見直し、活動助成団体として、8団体の事業（総額91万円）を採択し、年度末に取組報告会を実施しました。
- ⑧現行の助成事業の在り方と助成制度について、助成支援検討委員会を立ち上げ、次年度の助成制度を大幅に見直しました。
- ⑨助成事業を行う京都市ごみ減量推進会議とともに活動助成を希望する団体向けの「環境活動スタートアップ講座」を企画し、募集を行いました。（実施は2012年度）

環境保全活動を支援するための助成金制度は、様々な団体が取り組んでいます。その中で、京エコロジーセンターが助成金制度を運用する意義や、センターだからこそできる助成金制度とは何なのかを、他の助成金制度と比較をしたり、過去、センターの助成金制度を活用した団体からの意見も踏まえて検討委員会を設置して議論し、助成金制度を再構築し2012年度から運用します。他の事業と同じように、環境保全活動への「入り口」を支援する制度として、助成金取得の条件を低く設定し、かつ小額のコースを用意しました。また、次の段階として、組織の事務局機能を強化できるような「組織支援」コースを用意しました。さらに、先進的なモデルとなる事業に対して、100万円を上限とした助成金を用意し、事業が社会的インパクトを強めることができるコースを設けました。また、公募開始時期を従前より早め、年度当初より助成金を活用した活動が出来るよう、より活用しやすい助成金制度にすることことができました。

2-3-1

事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携

事業者が行う環境保全活動との支援・連携

成 果 目 標

先進事例（国内外問わず）を調査する。事業者との意見交換の場を持つ。上記を受けて、今後の方向性、支援・連携方法を検討する。可能な限り、年度内での事業化を検討する。

.....行為目標.....

事業運営委員や事業者と関わりのある団体に意見を求め、検討する。

.....主な実績.....

- ⑦京都工業会、京都商工会議所、京都産業エコ推進機構からの情報収集や京都グリーン購入ネットワーク普及啓発部会に定期的に参加し、事業者とのネットワークの構築を目指しました。
- ⑧京のアジェンダ21フォーラムと共に、「事業者向け環境出前講座スタートアップセミナー（27人参加）、フォローアップセミナープログラム企画編（12人参加）」を実施しました。



年度当初より、多くの事業者や事業者関連団体の方々へのヒアリングを行い、情報収集を行いました。さらに、以前より事業者と連携した事業を実施してきた京のアジェンダ21フォーラムとの協議の中で、京エコロジーセンターが事業者に対し提供できるものの一つが環境教育のノウハウであることが見えてきました。多くの事業者がCSR活動の一環で、学校現場に出向き自社の環境配慮の活動を授業化しています。しかしながら、授業を組み立て実施するプロでは無いために、様々な苦労があることがわかつてきました。そこで、同フォーラムとの共催で環境教育セミナーを開催し、座学、実習、情報交換を行いました。この中で、事業者間での横の繋がりが無いために、この種の機会は貴重であるという意見が多く集まり、事業者との連携に向け、一筋の光を見出せた一年となりました。

2-3-2

事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携

学生を含む教育機関による環境保全活動への支援・連携

成果目標

市内の学生を含む教育機関による環境保全活動の発展に向けて、京エコロジーセンターが支援・連携を行う対象や方法が、新たに見出されている。



行為目標

- ① 市内の学生及び教育機関の活動を調査し、ニーズ把握のために整理をする。
- ② 事業運営委員や、学生を含む教育機関と関わりのある団体に意見を求め、検討する。
※大学コンソーシアム京都との協働事業・京都教育大学との協働事業に関しては継続実施する。

主な実績

- ⑦ 5年目に入った大学コンソーシアム京都と龍谷大学との協働事業「京都発!エコ・デザイン学」を、5日間の夏季集中講座として33人の受講生により開講しました。
- ⑦ 京都教育大学生との協働事業「総合演習・環境教育の実践」を13人の受講生により開講し、環境学習プログラムを夏休みイベントとして実施しました。
- ⑦ 同志社大学院生の社会実験の企画をサポートし、エコクリッキング関連イベントを13人の参加で実施しました。また教育委員会の中学生生き方チャレンジ体験の取組で藤森中学校から2人を受入れました。

京都には、多くの大学があり、環境をテーマに研究、活動をしている学生も多くいます。しかしながら、京エコロジーセンターはこれまで学生との接点は多くありませんでした。そもそも、学生にあまり認知されていないこともあります、認知されているものの、何が出来、活用できる場所なのかを見せられていないということがわかつきました。2011年度は、同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーション研究コースの院生を中心に、研究のフィールドとして、センターを活動の場として提供することを行いました。また、同志社エコプロジェクトの基礎研修も実施しました。研究テーマに環境の要素が入り、一般の人を対象に社会実験を行うという場合、アドバイスできる職員の存在があり、被験者と成り得るお客様が多く来られる公共施設という2つの強みは、同様のテーマを掲げる他の学生にとっても、有益に働く可能性があることを見出すことができたことは成果でした。

3

一〇一年度事業報告

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

1 情報発信・広報対策

2 イベント(プログラム)の企画、実施

1

情報発信・広報対策

○ 2015年度到達目標

京エコロジーセンター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で国内外に発信し、交流している。

3-1-1

広報

成 果 目 標

新たな広報先により、これまで関わりのなかつた層に情報が届いている。

行 为 目 標

- ・広報について、媒体と掲載内容のマッチング、掲載内容と発信先のマッチング、費用対効果等を精査する。
- ・新たな広報案(メールマガジン等)を検討・実施する。

主 な 実 績

- ⑦開館9周年記念事業では京都新聞折り込みチラシ(伏見区内)、京都市営地下鉄31駅へのポスター、センター情報誌「えこいべ」その他を活用しました。(参加者アンケート「何で知ったか」:チラシ38%、ポスター10%、えこいべ3%)
- ⑧6月環境月間イベントでは京都市営バス・地下鉄への中刷り広告を掲出しました。
- ⑨夏休みイベントでは近隣小学校と地下鉄沿線小学校にチラシを持参し、児童に直接配布をお願いしました。
- ⑩開館10周年事業では、京阪丹波橋駅に電照ボード、地下鉄京都駅・四条駅にフラッグ等を事前周知広告として掲出しました。
- ⑪センターの常設広告としては、常設電照ボードを京阪四条駅、藤森駅に設置し、市営地下鉄の一部駅にPR広告を掲出しました。
- ⑫その他、商業新聞、ラジオ出演、市民しんぶん全市版・区版、GOGO土曜塾、ミニコミ誌等を活用しました。



3-1-2

情報発信・広報対策

外部イベントへのブース出展

成 果 目 標

子どもだけでなく、大人へ環境メッセージや、エコセン情報が出展先で届いている。

行 为 目 標

大人向け対応方法(体験内容、ノベルティ等)を新たに試行する。

主 な 実 績

⑦出展数48件、ブース参加者11,786人
(2010年度 45件 10,928人)

⑧特徴的な出展

- (ア)北野商店街における京都議定書発効記念エコ商店街キャンペーンや3R全国大会に「かえっこバザール」で出展しました。
- (イ)KES俱楽部ビジネスマッチングフェア、びわ湖環境ビジネスメッセでは、環境関連の事業者等と連携できる見通しができました。
- (ウ)京都市主催のサイドイベントで、センターキャラクターの「ちきゅまる」がゆるキャラ・フェスタに出演しました。
- (エ)西京極総合運動公園でサッカー観戦者を対象に「DO YOU KYOTOキャンペーン」として、センター紹介ブースを設けました。



毎年、40件程度、外部イベントへの出展を行っています。従来から、「ふれあい祭り」など地域行事への出展が多く、また来場者は子どもが多いことから、提供するプログラムも子どもを対象とするものが多く用意してきました。しかしながら、このところ地域行事以外への出展が増えてきたことや、外部出展を広報活動の一環として捉え直してみると、大人向け広報活動の手段が不足していることに気づきました。そこで、出展時の大人向け対応方法を新たに検討し、試行を重ねています。ブースに来られたお客様から、後日問い合わせがあるなど、徐々に成果が出始めている段階にきています。

新聞広告や織り込みチラシ、駅看板広告等の広告媒体を積極的に活用することにより、成果が見られます。特に、環境イベントの告知に関しては、内容、対象と広告媒体の特性とのマッチングに、京エコロジーセンターとしての「法則」を見出すことができました。今後の運営予算のより一層の選択と集中が求められる中、効率的な広告出稿や広報の手段を見出させていていることは、大きな収穫となりました。

イベント(プログラム)の企画と実施

● 2015年度到達目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。そこから、京エコロジーセンターの他事業に参加・参画する人々が現れている。

3-2



イベント(プログラム)の企画と実施

成 果 目 標

初来館者数が増えている。

行 為 目 標

- ・イベント参加をきっかけとした初来館者が増加している
- ・10周年記念イベントの企画が進行している

主 な 実 績

- ⑦イベント実施数158件、6,383人が参加しました。(2010年度 141件、4,017人) 特徴的な大型イベントは下記のとおりです。
- ⑦開館9周年イベントでは「収納王子コジマジック」ショーを開催しました。(211人)
- ⑦6月環境月間では「エコセン カエルフェスタ」を開催しました。(京のアジェンダ21フォーラム、京都市ごみ減量推進会議と共に 1,125人)
- ⑦10月には、未来フェスタ京都 科学×エコを開催しました。(青少年科学センター、KBS京都など5者共催 1,208人)
- ⑦2月には、伏見エコライフまつり～ふしみつけ エコみつけを開催しました。(区役所等と共に 428人)



大型イベントに親子向けに知名度のあるタレントを呼ぶなど、イベントの内容はもちろん、告知の段階から注目、関心を集めることに注力をしてきました。その結果2010年度に比べ、初参加者数、初参加率ともに上回ることができただけでなく、開館以来最も多くの年間来館者を獲得することができました。イベントを実施する時期と社会的動向の組み合わせが効果的になってきたことや、イベントのターゲットと広報をうまく組み合わせることが出来るようになってきたことは大きな成果となりました。また、初めて来られたお客様が、他のイベントにもご参加いただき、リピーターとなっていただける等、多くの波及効果を生み出しました。開館10年を迎え、今までで一番たくさんのお客様にお越しいただくことができ、多くの環境メッセージを発信することができました。

● 1 いろいろな主体が学び、育つステージの提供 まとめ

これまでの課題として挙げられている「様々な対象向け環境学習プログラム開発の不足」に対して、まずは児童向けと修学旅行向けプログラムの骨子ができたことは評価できる点です。また、人材育成系の事業も、開館来の継続した実施の中で多くの修了生を輩出し、その修了生向けのプログラムを新たに展開し始めたことも、今後に向けて新しい動きといえます。一方で、センターの根幹を成す、環境ボランティアの養成講座受講者数及びその登録者数は開館来もっと少なくなってしまいました。事業が立ち行かなくなる危機的状況であります。募集の時点で具体的な活動内容を表現できていなかったことが失敗の一因であることは掴めたので、この教訓を活かし、次年度の募集に取り組んでいきます。

● 2 いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携 まとめ

助成金事業に関しては、新たな助成金の枠組みを完成させ、既に新制度のもとで事業を進めています。また、積年の課題であった事業者との関係において、センターが事業者に対して果たせる役割が見え始めるなど、成果が上がってきました。一方で、地域に対する関わりは、特に京都市からの事業受託(エコ学区事業)により、地域との関わりを持つことができますが、受託事業ありきの地域との関係しか築けていません。今後は、市民活動総合センターや景観まちづくりセンター、エコまちステーション、区役所、ごみ減量推進会議等、地域との関わりを持つセクターが多く存在する中で、センターの地域に対して果たすべき役割を整理する必要があります。

● 3 持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 まとめ

イベント事業は、多くの初来館者を獲得し、開館来最高の来館者数の獲得に貢献する等、非常に大きな成果を挙げました。さらに、科学センターと連動したイベントの実施等、今まで出来なかった形態のイベントを実現しました。一方で、折り込みチラシや地下鉄の中吊り広告、駅の看板広告等を積極的に活用することで、新たな来館者を確保できたことも来館者増に貢献しましたが、指定管理費が年々削減される中で、集客のための投資が今後も継続的にできるよう対策をすることも大きな課題です。

○ 事業全体を通じて

全体として、着実に成果を残し始めています。パートナーシップの視点も、パートナーシップを目的化せずに、多くの事業で自然に取り入れができるようになってきました。さらに、様々なパートナーとの協働による事業実施により、より多くの情報が集まるようになってきました。しかしながら、これら情報を活かすためには、職員のスキルアップも非常に重要です。さらに、個々の事業の発展が進むにつれ、質を高めるために必要な時間も増えてきています。現状の事務局体制で今の事業量を維持し、質を高めていくには限界が近づいています。指定管理費が毎年削減される状況下で、安定しない雇用条件のもと、職員にかかる負担も相当なものとなっていました。センターの発展に伴い、職員のワークライフバランスを適切な状態に維持することが、来館者満足度に直接的に影響することも明らかになってきました。

課題も多くありますが、十分な検証・検討を踏まえた上の計画立案、進行管理、その後の評価方法などのマネジメントシステムが洗練されており、着実に解決していく仕組みが整いつつあります。事業評価のシステムについては、2012年度に中長期計画進行管理小委員会で具体化を図り、運用を始めます。第2期中長期計画初年度ではありますが、2012年度以降の4年間を着実にステップを踏んでいく素地ができたという意味において、大きな1年となりました。

○ パートナーの声

エコセンから世界へ京都議定書の精神を発信



京都市 地球環境政策監 田辺 真人さん

京都市では、京都議定書誕生の地として、「DO YOU KYOTO? (環境にいいことしていますか?)」を合言葉に市民ぐるみで地球温暖化対策に取り組んでいます。

その拠点として、市民・事業者・学識経験者・NPOの皆様との「共汗」で設立した京都市環境保全活動センター（愛称：京エコロジーセンター）は開館から10年を迎え、2011年度は入館者数が過去最高となるなど、小学生をはじめとして、多くの市民の皆様に愛される施設となりました。

今日、東日本大震災及びそれに引き続く福島第一原発事故を契機に省エネや再生可能エネルギーへの関心がかつてないほどに高まっており、まさに地球温暖化対策は大きな転換点を迎えてます。

持続可能な社会を実現し、この美しい地球を次代に継承していくため、私たち一人ひとりがあらゆる場面で環境にやさしいライフスタイルへの転換を推進することが極めて重要です。今後もオール京都で、ここ、京エコロジーセンターから環境保全の取組の輪を世界に広げて行きましょう。

10年のあゆみをふまえ、新たな未来へ



NPO法人コンシューマーズ京都 原 強さん

京エコロジーセンターは設立以来10年を経過しました。この間に生み出した成果の数々をあらためて確認し、これからの発展につなげてもらいたいと思います。その際、発展の原動力になるのはボランティアのみなさんの献身的な活動と若いスタッフの「やる気」、関連団体とのパートナーシップです。事業運営委員会や事務局マネージャーの役割はこれらの力を引き出し、発揮してもらうことです。するために京エコロジーセンターにふさわしいマネジメントシステムを確立することが求められるでしょう。

2011年3月11日以降、市民の環境問題への関心、とらえ方には大きな変化があります。とくにエネルギー問題への関心はとても高まっています。一人ひとりの市民としてくらしを変え、社会のしくみを変え、国の政策を変えていくための力を身につけるために京エコロジーセンターとしてどのような情報をどのように発信していくべきなのか、よく考えることも課題ですね。

さらに事業者との連携・支援強化を期待

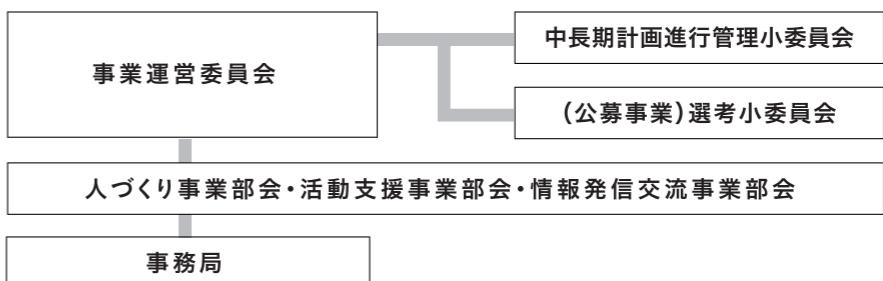


株式会社堀場製作所 品質改革推進部 伊藤 哲さん

2011年度は、京エコロジーセンターが創立10年の佳節を迎えるときに、創立の原点を確認しながら、今の中長期計画に基づいて様々な活動を展開されてきました。様々な立場の方が事業運営委員としてセンターの事業について検討することで非常に活性化され、触発される貴重な経験となっています。地域代表から町づくりでの環境貢献の浸透、環境NPOからの貴重な見識、「DO YOU KYOTO?」の旗艦にふさわしいソフトで新しい環境活動を発信提供できる場が京エコロジーセンターです。事業者としてもさらにリソースが提供できる環境を整備したいものです。

○ 事業運営体制

1. 事業運営組織



2. 事業運営委員会委員

1	伊藤 哲	(株)堀場製作所
2	伊東 真吾	京都府地球温暖化防止活動推進センター
3	乾 亨	立命館大学
4	井上 和彦	京のアジェンダ21フォーラム
5	上田 誠	京都市・地球温暖化対策室
6	大久保 規子	大阪大学
7	北村 憲治	環境ボランティア
8	枚本 育生	NPO法人環境市民
9	田浦 健朗	NPO法人気候ネットワーク
10	高月 紘	京エコロジーセンター館長
11	高橋 肇子	京都市地域女性連合会
12	田中 博	イオンリテール(株)

13	外池 順一	京都商工会議所
14	中田 富士男	(株)京都放送 ラジオ営業局
15	西村 俊治	京都市教育委員会青少年科学センター
16	西本 雅則	京都市市民活動総合センター
17	原 強	NPO法人コンシューマーズ京都
18	久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
19	牧村 雅史	京都市・循環企画課
20	水山 光春	京都教育大学
21	山内 寛	京都市ごみ減量推進会議
22	山本 照美	環境ボランティア
23	山本 雅章	(株)京都新聞社 論説委員室

3. 事業部会員

人づくり事業部会

1	井上 勝裕	(社)京都青年会議所
2	井上 則子	京都市立深草幼稚園
3	北村 彰	(株)日展
4	久山 喜久雄	事業運営委員会委員
5	堀 孝弘	NPO法人環境市民
6	水山 光春	事業運営委員会委員
7	山田 正人	京都市立深草小学校

活動支援事業部会

1	伊藤 哲	事業運営委員会委員
2	大屋 みのり	京都市景観・まちづくりセンター
3	木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター
4	田浦 健朗	事業運営委員会委員
5	高橋 肇子	事業運営委員会委員
6	長屋 博久	(有)村田堂
7	森本 純代	NPO法人きょうとNPOセンター

情報発信交流事業部会

1	浅利 美鈴	京都大学
2	滋野 浩毅	成美大学
3	豊田 陽介	NPO法人気候ネットワーク
4	中田 富士男	事業運営委員会委員
5	中林 徹郎	(株)京都リビング新聞社
6	原 強	事業運営委員会委員

○ 4. パートナーシップで運営される各種委員会の開催

(1)事業運営委員会

3回開催(6月、10月、3月)

前年度事業の総括、事業中間進捗確認、次年度計画の策定(各事業部会ごとに議論された内容を運営委員会で最終確認を行う)

(2)中長期計画進行管理小委員会

1回開催

中長期計画の進捗管理、及びそのマネジメントシステムの検討。

(3)事業部会(人づくり、活動支援、情報発信・交流)

各3回開催(6月、10月、2月)個別事業の詳細検討

(4)開館10周年記念事業実行委員会

4回開催(10月、11月、12月、3月)

京エコロジーセンターの事業は、上記のパートナーシップで運営される各種委員会により運営されています。

○ 5. 事務局組織図と主な事業(業務)担当

館長 高月 純	次長 新喜 富雄	事業課長 岩松 洋	事業課長補佐 谷内口 友寛	事業課職員 12人
		総務課長 青谷 治		総務課職員 3人

事業課職員	主な担当事業
井上 幸治	ボランティア
佐崎 由佳	展示、ボランティア
農本 真由子	イベント、広報
木村 佳代	地域、ボランティア、情報
遠藤 修作	プログラム開発、団体見学、出展
松本 みどり	ボランティア、地域
仲上 美和	地域、事業者・教育機関
白戸 深子	展示、広報、ボランティア
島林 あずさ	イベント、環境人づくり、助成金
新堀 春輔	プログラム開発、団体見学、出展
西垣 智恵	事業庶務
松本 和晃	親子エコセンクラブ

総務課職員	主な担当業務
本多 裕子	10周年事業、図書コーナー
松村 三枝子	経理
川渕 学	労務、施設管理

○ 資料集

○ 資料 1. 経年入館者数等

1. 入館者数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
合計	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434
累計	86,085	169,095	243,305	319,120	388,500	466,479	546,212	626,280	695,161	782,595

(内 団体見学:上段 人数、下段 団体数)

合計	8,794	6,796	4,870	7,217	7,050	7,584	8,850	5,911	6,714	6,026
	307	234	201	247	191	232	271	213	219	175
海外	300	127	128	245	193	683	538	628	1,081	701
	5	10	16	12	26	26	37	40	27	27

(内 エコ学習:上段 人数、下段 学校数 2002~2003年度は中学校含)

合計	19,597	21,027	11,318	11,716	10,964	11,236	10,817	5,598	4,013	5,219
	235	256	243	180	182	177	178	85	96	117
会議室貸出件数:上段 利用者数、下段 貸出部屋数)	4,047	4,333	4,895	5,306	5,454	7,167	6,707	5,280	5,432	4,987
	173	299	409	470	469	589	581	457	459	481

2. 館外事業参加者(上段:参加者数、下段:事業件数)

合計	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188
海外	27	37	59	107	110	128	142	118	174	141

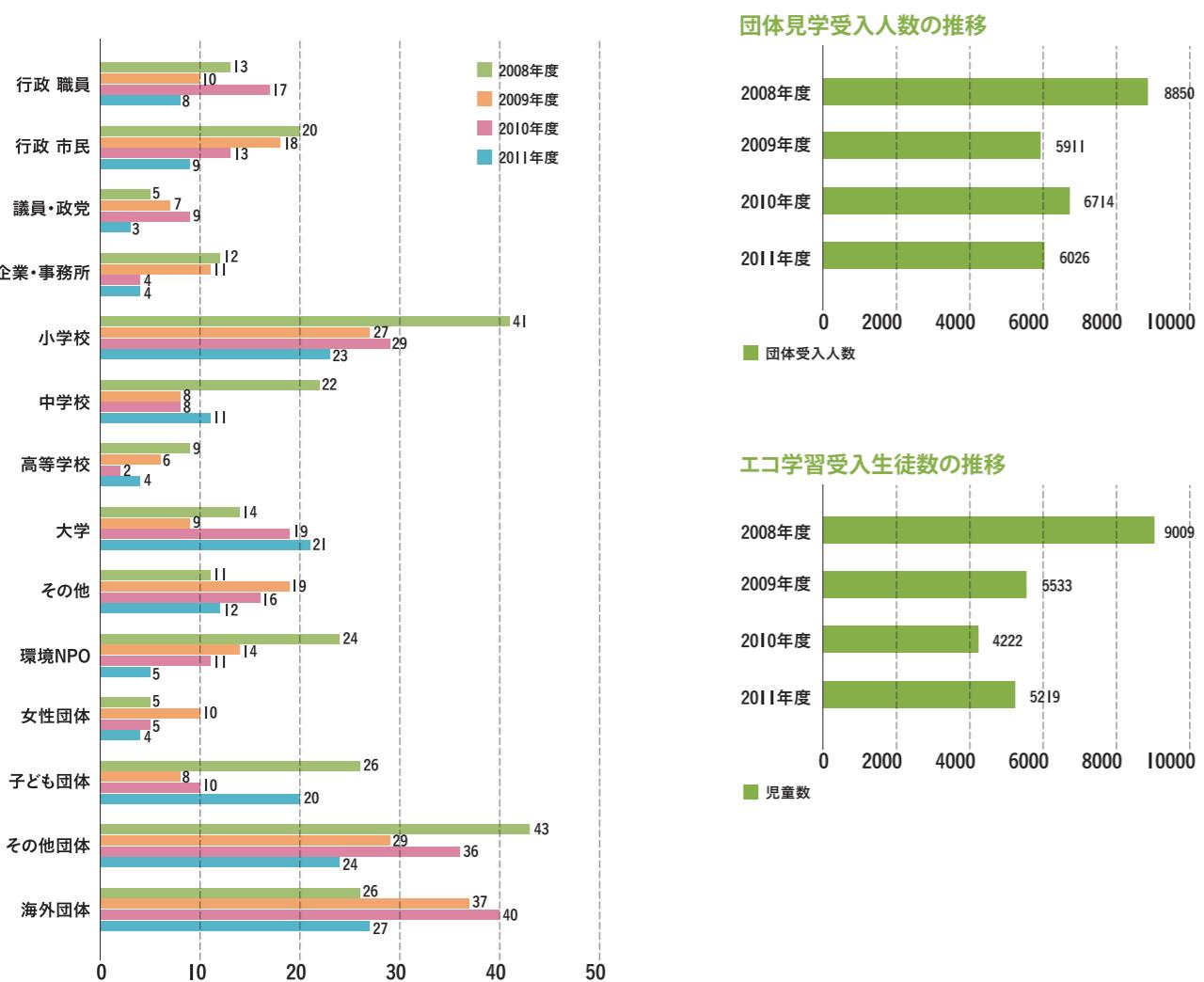
3. 入館者数と館外事業参加者数の合計

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
館内	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434
館外	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188
合計	89,742	94,076	89,263	97,261	79,307	94,242	93,161	105,247	84,601	101,622

○ 資料 2. 月別入館者数

2011年度 入館 者数	内訳						経年入館者数		館内		館外	
	個人	団体見学		エコ学習	会議室等		2010 年度	2009 年度				
		総数	(内)海外		人数	校数		参加者	件数	参加者	件数	
		人数	団体数		人数	団体数	人数	校数	利用者数	部屋数等	参加者	件数
4月	5,162	4,158	330	10	0	0	294	10	380	38	4,366	4,814
5月	6,746	5,105	965	12	0	0	158	2	518	45	5,300	7,019
6月	6,557	5,294	554	21	136	5	327	5	382	35	6,599	6,185
7月	7,506	6,151	891	21	60	2	16	1	448	46	6,325	8,961
8月	8,221	7,692	106	7	26	2	0</td					

○ 資料3. 団体見学受入団体別推移(2008年~2011年度)



○ 資料5. 館内エネルギー使用量

1. 電力使用量													合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量(kWh)	33,545	14,520	18,556	38,520	46,309	42,718	22,337	13,402	30,368	35,102	45,866	37,508	378,751
・太陽光発電使用量(kWh)	2,154	2,077	2,043	2,312	2,469	1,722	1,569	1,046	—	—	—	—	15,392
・関西電力(kWh)	31,391	12,443	16,513	36,208	43,840	40,996	20,768	12,356	30,368	35,102	45,866	37,508	363,359
太陽光発電量(kWh)	2,160	2,095	2,085	2,313	2,469	1,722	1,576	1,046	—	—	—	—	15,466
売電量(kWh)	6	18	42	1	0	0	7	0	—	—	—	—	74
太陽光発電使用量割合(%)	6.40%	14.30%	11.00%	6.00%	5.30%	4.00%	7.00%	7.80%	—	—	—	—	

(12月~3月は故障のため測定不可)

○ 資料4. 図書コーナー利用状況

	図書				ビデオ・DVD				図書カード登録者	
	図書総数	雑誌	貸出冊数	累計貸出冊数	利用者			貸出数	新規登録	登録者累計
					保有数	総数	小学生	中・高	大人	
4月	5,833	1,050	179	3,719	532	113	92	2	19	80
5月	5,833	1,063	141	3,860	532	87	65	8	14	61
6月	5,852	1,069	135	3,995	532	72	61	5	6	57
7月	5,852	1,076	142	4,137	532	123	102	12	9	62
8月	5,861	1,091	132	4,269	532	181	147	10	24	126
9月	5,861	1,096	79	4,348	532	121	98	7	16	81
10月	5,883	1,122	73	4,421	532	80	67	1	12	63
11月	5,892	1,129	77	4,498	532	55	45	4	6	32
12月	5,903	1,146	75	4,573	532	62	48	10	4	41
1月	5,903	1,156	108	4,681	532	66	51	0	15	51
2月	5,906	1,171	92	4,773	532	61	40	4	17	51
3月	5,907	1,181	83	4,856	532	105	79	5	21	81
計				1,316		1,126	895	68	163	786
						173				